



さあ、答え合わせをしよう！

第26週目 1/11 行ってみよう～高知県(こうちけん)からの出題

※ココを見てね! ▶行ってみよう～高知県(こうちけん)

1. 高知県(こうちけん)の海岸線(かいがんせん)は、何 km ある？

正解:①700km

高知県(こうちけん)は、四国地方(しこくちほう)の南部に位置(いち)し、南は太平洋(たいへいよう)に面し、北は四国山地をはさんで徳島県(とくしまけん)と愛媛県(えひめけん)に面しています。海岸線(かいがんせん)の長さは、①700kmが正解です。山地が多く、84%が森林(しんりん)です。吉野川(よしのがわ)や四万十川(しまんとがわ)、5年連続水質(すいしつ)日本一に選(えら)ばれた仁淀川(によどがわ)など、日本を代表(だいひょう)する河川(かせん)をもちます。

2. 旧石器時代(きゅうせきじだい)や縄文時代(じょうもんじだい)の遺跡(いせき)は、川沿いの山の中に多くあります。何という川ですか？

正解:③四万十川(しまんとがわ)

高知県(こうちけん)の特徴(とくちょう)を読めば、すぐにわかりますね。正解は、③四万十川(しまんとがわ)です。ちなみに、このWEBサイトでは、四万十川(しまんとがわ)流域(りゅういき)の遺跡(いせき)として、具同中山遺跡群(ぐどうなかやまいせきぐん)、古津賀古墳(こつかこふん)、大宮・宮崎遺跡(おおみや・みやざきいせき)を紹介(しょうかい)しているので、遺跡(いせき)の情報(じょうほう)ページも見てみてね。

3. 弥生時代(やよいじだい)の生活を新たな場所でスタートさせた人たちが残したのは、何という遺跡でしょうか？

正解:③田村遺跡群(たむらいせきぐん)

高知県(こうちけん)における弥生時代(やよいじだい)のはじまりを知る上で、対照的(たいしょうてき)な2つの遺跡(いせき)があります。縄文時代(じょうもんじだい)の生活に弥生時代(やよいじだい)の暮(く)らしを取り入れた居徳遺跡群(いとくいせきぐん)と、新しい場所で弥生時代(やよいじだい)の生活をはじめた人たちによる田村遺跡群(たむらいせきぐん)です。そう、正解は③ですね。田村遺跡群(たむらいせきぐん)は、弥生時代中期(やよいじだいちゅうき)には西日本でも屈指(くっし)の大集落となり、大きな影響力(えいきょうりょく)を持っていました。現在は、高知龍馬空港(こうちりょうまくうこう)と高知南国道路(こうちなんごくどうろ)になっています。くわしくは、遺跡(いせき)の情報(じょうほう)ページを見てみてね。

4. 兔田八幡宮(うさいはちまんぐう)がもつ「絵画銅剣」に描かれているのは、シカ・サギ・カエルと、あと一つは？

正解:①カマキリ

正解は「お宝ベスト5」4つ目、①カマキリ。現存(げんぞん)している部分は、長さ23.4cm、幅4cmですが、シカ、サギ、カエル、カマキリの4種7体が半肉彫り(はんにくぼり)で描(えが)かれた珍(めずら)しいものです。銅剣(どうけん)の先端部(せんたんぶ)は、昭和34年に兔田八幡宮(うさはちまんぐう)社殿(しゃでん)が火事で全焼(ぜんしょう)したときに消失(しょうしつ)しました。弥生時代(やよいじだい)の祭祀(さいし)を考える上で、貴重(きちょう)な資料(しりょう)です。

5. 具同中山遺跡群(ぐどうなかやまいせきぐん)からみつかった高知県最大の「まが玉」は、何で作られている？

正解:②碧玉(へきぎょく)

全長5.5cm、重さ40.2gという大きな「まが玉」は、「お宝ベスト5」5つ目に紹介(しょうかい)されている通り、②碧玉(へきぎょく)で作られています。深(ふか)い緑色をしたこの石には不思議(ふしぎ)なパワーがあると信じられていました。祭りのときに、カミに捧(ささ)げられたものだと考えられています。「碧玉(へきぎょく/ジャスパー)」は、外国でもパワーストーンとされており、聖書(せいしょ)では神がモーゼに授(さず)けた「火の石」の1つで、天使を呼ぶ力があるとされました。